小 論 文 教育学部

(令和5年度)

[注意事項]

- 1. 試験開始の合図があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 2. 解答には黒鉛筆または黒シャープペンシルを使用しなさい。
- 3. 氏名及び受験番号を解答用紙(4枚)に必ず記入しなさい。
- 4. この冊子には、問題 I と II があります。
- 5. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁·乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に申し出なさい。
- 6. 解答は必ず解答用紙の指定箇所(問題番号と一致するところ)に記入しなさい。
- 7. 下書きにはこの冊子の下書き用原稿用紙を使用しなさい。
- 8. 試験終了後、問題冊子を持ち帰りなさい。

I 次の文章は、教師と生徒の「教育的関係」を、「権力関係」「平等関係」「指導および被指導の関係」の3つに分類して論じている。この文章を読んで、後の問いに答えなさい。

教育学者の小原國芳は、「教師は水車たれ!」という言葉で、教師の生徒へのあり方 を説いている。この言葉は、いったいどのような教育的関係のなかにみられるものな のだろうか。鯵坂二夫は、その著『教育原論』のなかで、教育的関係について語り、 「権力関係」と「平等関係」と「指導および被指導の関係」の3つに分類している。 第1の「権力関係」においては、教師は支配する者、命令する者であり、生徒はそ れに対して、支配され、命令される者として考えられる。このような教育的関係は「す ずめの学校」型関係とも呼ばれるものである。すずめの学校の先生は、童謡で歌われ るように.「鞭を振り振りチーパッパ」「まだまだいけないチーパッパ」で、まさに支 配的・命令的だからである。このような教師と生徒の間には、恐怖や権力はあっても、 愛や信頼は存在しないのであり、また服従はあっても、生徒の自主性や主体性は考え られない。つまり、このような関係にあっては、生徒は教師の命令に服従するか、あ るいは反抗するかのいずれかであり、前者を選んだ者は、いわゆる従順で善良な生徒 と呼ばれ、後者を選んだ者は、不徳者として遇せられやすいのである。このような教 **育的関係では、真の指導がなされえないのは明白である。しかしながら、このような** 関係は古来最も多く存在した教育関係であり、現在でも一部ではみられるようである。 第2の「平等関係」は、第1の権力関係とは極端に反対の立場をとるものであり、 同僚関係あるいは友人関係としても考えられる。たんなる同僚としてみる立場と、そ の間に1つの友情関係をみようとする立場の違いはあるにしても、いずれにせよ、こ のような考え方の根底には、教師と生徒の間に、同一性、同一権という前提が置かれて いるのが特徴である。このような教育的関係は、先の「すずめの学校」型関係に対し て、「めだかの学校」型関係と呼ばれる。めだかの学校では「誰が生徒か先生か」不明 であり、「みんなでお遊戯して」いて、完全な平等関係にあるからである。たしかに、 生徒の人間性に内在する正当な権利を認めず、権力によって生徒に服従を強要するこ とは誤りである。しかし、だからといって、両者の同一や同権をただちに主張するの は、あまりに軽率のそしりを免れないことである。そしてその結果は、成熟者として

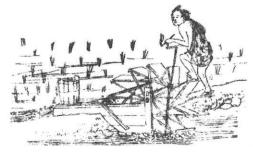
の教師の援助や指導性が希薄にならざるをえないことになる。

第3の「指導および被指導の関係」では、指導者としての教師の優位を認め、それに対する被指導者としての生徒の服従を認めるものではあるが、同時に生徒の人間性に内在する正当な権利をも認めようとするものである。よって、教師の生徒に対する優位は、権力による優位ではなく、全人格性をもってする優位である。「権力」という言葉との対比によっていうならば、「権威」による優位ともいえるものである。であるから、ここにおける生徒の教師への服従は、けっして教師への恐怖からする追従や盲従ではなく、積極的にその人格を敬い、その実力を掲仰*1しようという自律的な服従なのである。つまり、第1の権力関係における教師への服従が「権力への服従」であったのに対し、ここでは、生徒の自主性・主体性から発した「了解における服従」である。「この先生のいうことであるならば間違いない!」というように、畏敬と信頼とをもって生徒が先生に従うとき、それは教師の「権威への服従」なのであり、このような教育的権威が存在してのみ、教師の生徒に対する指導に効果がみられるであろうことは、疑いの余地のないところである。

昔の日本の農家では、田植えなどのために、堀や川から田んぼに水を引き入れるのに、人力の「水車」*2を使用していた。水車は、一部が水に浸かっていなければ、空回りばかりして田んぼに水を入れることはできず、かといって水に浸かりすぎては、重くて回らないばかりか田んぼに水を上げることもできない。

【出典】石橋 哲成著 「教師論」 米山弘編著 玉川大学出版部(2001)

- *1 人の徳を仰ぎ慕うことを、のどの渇いた者が水を求めるのに例えた語。
- *2 ここでいう「水車」とは、下の絵のような、江戸初期に発明され、昭和 20 年代まで使われていた「踏み車」をイメージするとよい。



〔絵出典〕 『図録 農民生活史事典』柏書房(1979)。

- 問1 本文中で論じられている「権力関係」「平等関係」「指導および被指導の関係」 のそれぞれについて、小原の比喩に従って、教師を水車に、生徒たちを水に例 えて200字以上400字以内で説明しなさい。
- 問 2 現在の教育現場で発生している諸問題を一つ取りあげ、その問題の解決策について、本文で論じられている「教育的関係」と関連づけながら、あなたの見解を 200 字以上 400 字以内で論述しなさい。

- Ⅱ 以下の資料に関する設問に答えなさい。
 - 問1 資料①~③は、令和3年度の「全国学力・学習状況調査 小学校国語」の 調査(6年生対象)についての資料である。資料①~③で示されている内容 から、小学校国語の学力・学習における課題としてどのようなことが考えら れるか。資料内容を踏まえながら、あなたの見解を200字以上400字以内で 論述しなさい。
 - 問 2 問 1 で論述した課題を解決するために、あなたは小学校教員としてどのような対応や指導を行うのがよいと考えるか。あなたの考える対応や指導について、それがもたらすと予測される効果に触れながら、200 字以上 400 字以内で論述しなさい。

[資料①] 正答等の集計結果

児童数	平均正答数	平均正答率				
1,005,469 人	9.1/14問	64. 9%				

[資料②] 問題の分類・区分別集計結果

	A) Alex		対象問題数	平均正答率	
	分類	区分	(問)	(%)	
	分類 区分 (問) (%) 言葉の特徴や使い方に関する事項 6 68.5 知識及び 技能 情報の扱い方に関する事項 0 - 我が国の言語文化に関する事項 0 - 思考力, 判断力, 表現力等 書くこと 3 77.9 書くこと 2 60.8 新むこと 3 47.4 知識・技能 6 68.5 評価の観点 思考・判断・表現 8 62.2 主体的に学習に取り組む態度 0 -	68. 5			
学翌	2000	情報の扱い方に関する事項	0	_	
指導	<i>J</i> X110	我が国の言語文化に関する事項	0	(問) (%) 6 68.5 0 - 0 - 3 77.9 2 60.8 3 47.4 6 68.5 8 62.2	
13,7,7,7	話すこと・聞くこと	3	77. 9		
	書くこと	2	60.8		
	表現力等	読むこと	3	47.4	
		知識・技能	6	68. 5	
評1	価の観点	思考・判断・表現	8	62. 2	
593-500-989 NJ 387 (9-256)		主体的に学習に取り組む態度	0	-	
		選択式	8	71.9	
問	題形式	短答式	3	70. 7	
		記述式	3	40. 4	

[資料③] 出題の趣旨と問題の分類・区分の対応

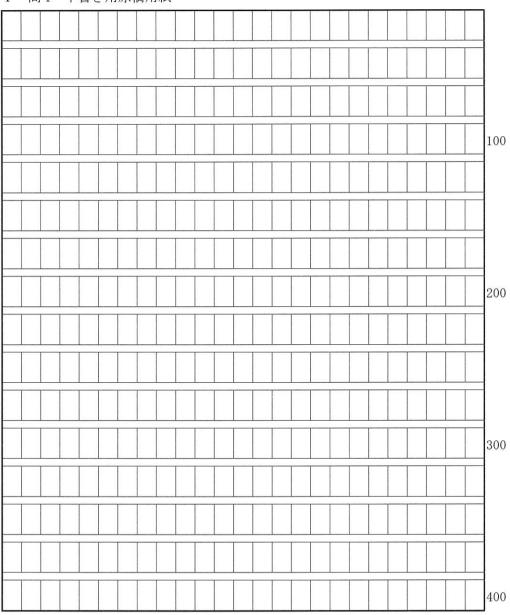
	Τ	7	全習指	貞 要									
にスピーチの構成を考える 料を用いた目的を理解する 的や意図に応じ、資料を使って 章全体の構成を捉え、内容の中 る事柄を把握する 考に関わる語句の使い方を理解 や文章の中で使う 的に応じ、文章と図表とを結び 必要な情報を見付ける 的を意識して、中心となる語や 付けて要約する 分の主張が明確に伝わるように 全体の構成や展開を考える 的や意図に応じて、理由を明確 がら、自分の考えが伝わるよう。	分類	知識及び技能		力等			評価の観点			問題形式			
		関葉	事項扱い方	国の言語文化	すこと・聞く	書くこと	読むこと	知識・技能	考・	組む態度主体的に学習に取り	択	短答式	記述式
目的に応じ、話の内容が明確になうにスピーチの構成を考える	るよ		-	1	0				0	-	0		
資料を用いた目的を理解する					0				0		0		
目的や意図に応じ,資料を使って	話す		- 1		0				0		0		
文章全体の構成を捉え,内容の中なる事柄を把握する	心と						0		0		0		
思考に関わる語句の使い方を理解 話や文章の中で使う	解し,	0		A 334				0			0		
目的に応じ,文章と図表とを結び て必要な情報を見付ける	付け	-					0		0				0
目的を意識して,中心となる語や 見付けて要約する	文を						0		0				0
自分の主張が明確に伝わるようし 章全体の構成や展開を考える	こ,文					0			0		0		
目的や意図に応じて,理由を明確 ながら,自分の考えが伝わるよう き表し方を工夫する	に書					0			0				0
学年別漢字配当表に示されている 字を文の中で正しく使う	る漢	0						0				0	
文の中における主語と述語との を捉える	関係	0						0		8.8	0		
文の中における修飾と被修飾と 係を捉える	の関	0						0			0		

注:表中の〇は、出題の趣旨に該当することを表す。出題の趣旨の中で、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」のみ3問出題され、その他の項目は各1問出題された。

[資料に関する注記]

文部科学省 国立教育政策研究所「令和3年度全国学力・学習状況調査報告書 小学校国語」をもとに作成した。

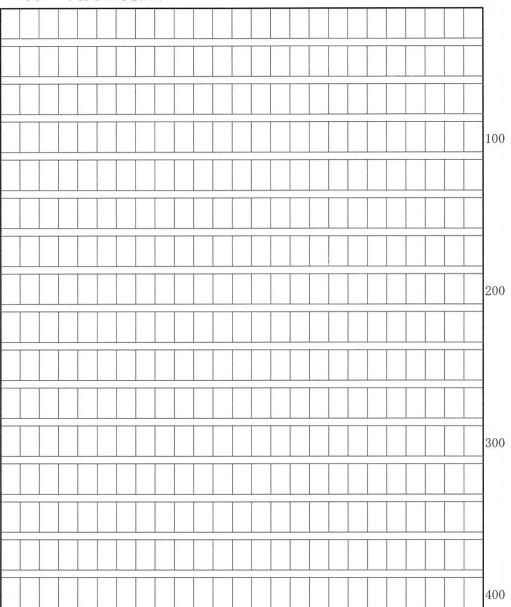
I 問1 下書き用原稿用紙



I 問2 下書き用原稿用紙

問 2	ト書さり	1別備月	一							7
								П	TT	1
										1
					$\perp \perp$					-
										10
							-			
T					T					7
										1
										20
							\perp			1
		$\pm \pm$				11	$\overline{}$	$\overline{\Box}$		1
		T			П	T		ТТ		
										30
										1
							$\overline{}$	+		1
						T			ii	1
				 						1

Ⅱ 問1 下書き用原稿用紙



Ⅱ 問2 下書き用原稿用紙

